

事務事業名	農業用施設災害復旧事業		所属部	建設部	所属課	農地整備課 (災害復興T)
総合計画体系	政策名	〈V〉挑戦し活力を産みだすまち〈産業〉		所属G	災害復興G	
	施策名	〈34〉農業の振興		担当者名	高木 洋輔	
	目的対象	市内の農家	意図	安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農業所得が向上する。		
	基本事業	〈097〉農業基盤の整備・保全		電話番号	0854-40-1062 (内線) 2474	
目的対象	担い手農家をはじめとする農家	意図	働きやすい環境で、農業の生産性が維持・向上する。			予 算 科 目
			会計	0:1550:1	款	0:1
			大	0:5	大	0:1
			事	1:5	業	0:1
			業		名	
						農業用施設災害復旧事業
						01 現年農業用施設災害復旧事業
						04 令和3年過年農業用施設災害復旧事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
被災箇所	被災箇所の復旧を図ることにより、農林水産業の維持を図り、併せてその経営の安定に寄与する。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	豪雨災害により、土砂崩壊、路肩決壊、水路の破損などの被災を受けた農業用施設(農道・水路など)を原形復旧する事業である。災害として認められる基本事項として、時間雨量20mm以上、24時間連続雨量80mm以上のどちらかをクリアすること、また災害規模としては、被害額が40万円以上であることが必要となる。 暫定補助率:65% R3年度 激甚災害(238箇所):補助率99.5%
④ 主な活動 R4年度実績(R4年度に行った主な活動) R3繰越 2箇所発注→2箇所完了 (※この他に応急工事を15箇所発注・完了) R4現年 35箇所発注→2箇所完了、33箇所R5へ繰越	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) R3災は非常に甚大な被害であったことに鑑み、特例措置として受益者負担を求めないこととしている。(通常:2%→R3災:0%)

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(計画)
ア 竣工箇所数(現年災)	箇所	8	0	1	未定
イ 竣工箇所数(過年災)	箇所	1	3	4	105
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R4年度決算)		② コストの推移		単位	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(計画)
[R3繰越(R3災)] 委託費:206,538千円、工事費:72,245千円 計:278,783千円		財 源 内 訳	国庫支出金	千円				
[R4現年(R3災)] 委託費:4,242千円、工事費:13,869千円、事務費:5,278千円 計:23,389千円			県支出金	千円	13,971	3,514	286,425	1,505,448
[R4現年(R4災)] 委託費:1,929千円、工事費:4,867千円 計:6,796千円			地方債	千円	2,800	23,800	9,700	22,900
合計:308,968千円 ※地方債:災害復旧債			その他	千円	257	61	0	300
			一般財源	千円	3,670	23,963	12,843	14,580
		事業費計	千円	20,698	51,338	308,968	1,543,228	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	被災農業用施設の復旧により、農業経営の維持安定化が図られた。 R3災分については、R5年度以降引き続き早期復旧に努める。
② 事業実施するうえでの課題	R3災は非常に箇所数が多く、農災以外にも治山・林道災、公共災など多様な災害が発生した。復旧には複数年かかる見込みであり、他の災害と調整を取りながら計画的な発注が必要となる。
③ 課題解決に向けた改革改善等	国、県、管理者との情報共有を行い、円滑に事業進捗するよう努める。